

「自分で」を表す for oneself

— 「自分のためになる」の意味を含むというのは本当か—*

平沢慎也

s-hirasawa@keio.jp

キーワード：前置詞 for for oneself one's own 再帰代名詞 受益・恩恵 対比

要旨

英語の for X-self (e.g. for myself, for herself) という表現は “Mother, would you come here, please? Father says he can't tie his tie.” “Why can't he tie it **for himself**?” (「お母さま、ちょっとこちらへ来てくださる？ お父さまがネクタイを結べないって」「どうして自分で結べないの」) のように「自分 (の力) で」の意を表すことができる。この用法の for X-self に関して、従来、「X のためになる、X にとって利益になる」というニュアンスを含むという説明が提示されてきた。しかし、for X-self は Come and see **for yourself**. Not that it'll do you any good. (こっち来て自分の目で確かめてみなよ。まあ見たところで何にもならないけど) や I saw it **for myself** and I wish I hadn't. (私はそれを自分の目で見てしまった。見なければよかったと後悔している) のように X にとっての利益を明示的に否定するような英文の中で用いてもまったくもって自然であることから、「ためになる」説に十分な説明能力があるとは言えない。これに対して本稿は、for X-self は「本来 X が行うべきことを他の人が代わりに行う」という状況を対比の相手とし、これを否定する意味を持つと主張する。つまり「本来 X が行うべきことを他の人が代わりに行うのではなく、本来通り X 自身が行う」ということである。この分析が正しいとしたら、for X-self という形を取りながらも「for [X 以外の人] なのか for [X 自身] なのか」という風に for の目的語の位置で対立が起こっているのではなく、「X 以外の人ができるのか X がするのか」という風に行為の主体 (典型的には文の主語) の部分で対立が起こっていることになり、ある種のねじれが発生していることになるが、これと類似したねじれは for X-self に限らず X's own N や V X-self にも観察されるため、英語の体系の中に自然な形で位置付けられる現象であると言える。本稿では、「ためになる」説が支持されてきた理由の考察や、これまで提案されてきた「ためになる」説以外の説の検証も行う。

* 筆者は、高校時代、Think for yourself 「自分で考えなさい」、See for yourself 「自分の目で見てみなよ」といった例について、「ゆくゆくは自分のためになるような行為だから for oneself が使われているのだ」という趣旨の説明に触れたことがある。その時、「それなら大体どんな動詞にだって for oneself を添えることができるはずじゃないか。結局 for oneself はどういうときに使えて、どういうときに使えないんだ」と疑問に思ったことを今でもはっきりと覚えている。本研究は、この約 20 年前の自分自身の疑問に対して私なりに導き出した答えである。

といっても、多くの方々からの支えがなければ、この研究はおそらく完成を見なかつただろう。特に、準備段階で先行研究の収集を手伝ってくださった山崎竜成氏、原稿へのコメントをくださった西村義樹先生、古我征道氏、野中大輔氏、インフォーマントとして協力してくださった Mark Rosa 氏、Ash Spreadbury 氏、準備段階から完成にいたるまでのすべての過程で詳細な情報と丁寧な助言をくださった萩澤大輝氏に感謝したい。また、本研究は慶應義塾学事振興資金 (2022 年度) の補助を受けて行われたものである。

1. はじめに

英語の for X-self という表現 (e.g. for myself, for herself) には「自分 (の力) で」を表す用法が存在する。この用法は「自分のためになるように」という意味を含んでいると説明されることが多い。たとえば『ウィズダム英和辞典』と『ジーニアス英和辞典』ではこの用法について (1a) と (1b) のように記述されている。

- (1) a. (自分のために) 独力で, 自分で

Go and see *for yourself*.

自分で行って見てごらん. (『ウィズダム英和辞典 (第4版)』 s.v. *oneself*; 斜体原文)

- b. 独力で 《◆「自分のためになるように」という意を含む》

Look into it *for yourself*.

自分でそれを調べなさい. (『ジーニアス英和辞典 (第5版)』 s.v. *oneself*; 斜体原文)

しかし, 6.1 節でもう一度確認することになるが, (2) と (3) に示したように for X-self の後に「自分のためになることを意図してはいない」や「自分にとって利益にならなかった」といった内容を続けても, 矛盾したことを言っている文であるように感じられたり, 不自然に響いたりすることはない。

- (2) a. Come and see **for yourself**. Not that it'll do you any good. (筆者作例)

こっち来て自分の目で確かめてみなよ。まあ見たところで良いことがあるわけじゃないけど。

- b. With no one to rely on, he had no choice but to decide **for himself**, though he knew it wouldn't do anyone any good, including himself. (筆者作例)

頼れる人が誰もいない彼は, 自分で決める以外なかった。自分で決めることで自分を含めて誰も何も得をしないことはわかっていたが。

- (3) a. I saw it **for myself** and I wish I hadn't. (インフォーマント提供)

私はそれを自分の目で見てしまった。見なければよかったと後悔している。

- b. My father was an explorer and told me all about the pyramids in Egypt. I went to see them **for myself**, but they were not as good as I had expected. (インフォーマント提供)

父親は探検家で, 僕にエジプトのピラミッドのことを色々教えてくれた。それでこの目で見ようと実際に行ってみたのだけれど, 期待していたほど良いものではなかった。

- c. I thought about it **for myself** but realized that I was wasting my time; I would not be able to come up with a better solution than the experts. (インフォーマント提供)

私はこの問題について自分の頭を使って考えたが, こんなことをしても時間の無駄だと気付いた。専門家よりも良い解決策なんて, どうせ思いつかない。

したがって、「自分のために（なるように）」という記述を（少なくともこのままの形で）残しておくことはできない。本稿で、今一度、for X-self の意味を問い直してみたい。

2 節以降の構成は以下の通りである。2 節では、for X-self という表現にはいくつかの用法が存在することを示し、本稿の分析対象が何でないのかを論じることを通じて、分析対象の範囲を明確にする。3 節では、X-self を含んだ副詞的な表現のうち by X-self と X-self を取り上げ、これらの表現の分析には、対比の相手として想定されているものが何なのかを考えることが有効であることを指摘する。4 節ではその「対比相手」の観点から for X-self を分析し、ある仮説を提示する。その仮説は、あまりにもややこしく、突飛であるように思われかねない。そこで 5 節では、そのあまりにもややこしく、突飛かもしれない仮説が、実は他の英語表現を分析するのもにも有効であるということを示し、単なる表面的な複雑性を理由に排斥されるべき仮説ではないということを主張する。6 節では、本稿の仮説・主張を従来の諸説と比較する。7 節では本稿の内容をまとめた上で、英語学習者にとって注意すべき点を補足する。

なお、本稿の読者として言語研究者に加えて中級以上の英語学習者も想定している。後者の読者は、6 節を飛ばして読んでいただいて構わない。

2. for X-self の色々なパターン

本節では、for X-self には「自分（の力）で」以外の意味を表わすパターン、すなわち本稿の主たる分析の対象外となるパターンが存在することを確認する。なお、本節は本稿の議論を成立させるのに必要である以上の情報を提供するものになっているが、これは英語学習者にとって少しでも勉強になるようにとの配慮からである。

2.1. 相対的未来の経験主体が X-self

平沢（2021: 第 10 章）が指摘するように、前置詞 for には相対的未来の経験主体を導入する用法が存在する。たとえば以下の例を見てみよう。

- (4) a. Boys, I've got a question **for** you. (平沢 2021: 195–196 ; 太字原文)
 こんにちは。実は皆さんに質問があります。
- b. I cannot see a good future **for** us [...]. (平沢 2021: 196–197 ; 太字原文)
 私たちに明るい未来がやってくるどころなんて想像できません [...].

(4a) の you は、当該の質問に答えるという経験の主体に対応している。そしてその経験は I've got の時点と比べて相対的に未来に位置する。(4b) の us は、明るい時代を生きるという経験の主体に対応している。そしてその経験は I cannot see の時点と比べて相対的に未来に位置する。このような意味でこれらの例における you や us は、相対的未来の経験主体だというわけである。

この用法の *for* は、2.2 節で論じる恩恵の用法と重なる場合もあるが、恩恵の用法に完全に還元されるべきものではない。たとえば、以下の例を見てみよう。

- (5) Sam baked a cake **for** Chris. (Goldberg 2019: 30 ; 太字引用者)

この例には、Goldberg が指摘している通り、複数の解釈が存在する。まず、Sam が Chris においしく食べてもらおうとケーキを焼いたという解釈である。この場合、*for* には相対的未来の意味 (Chris がケーキを食べるという経験は Sam baked の時点に比べて未来に位置付けられる)、および恩恵の意味が含まれていることになる。また別の解釈は Chris に投げつけるためにケーキを焼いたというものである。この場合、Chris は相対的未来の経験主体ではあるが (ケーキを投げつけられる時点は Sam baked の時点に比べて相対的に未来に位置する)、恩恵を受ける主体ではない。このように、相対的未来の経験主体を導く *for* とは分析できるが恩恵の *for* とは分析できない例というものが存在する以上、相対的未来の経験主体を導く用法を恩恵の用法の一種として回収してしまうわけにはいかない。

さて、相対的未来の経験主体を導く用法の *for* の目的語が X-self になる場合がある。つまり自分自身が相対的未来の経験主体になるということである。たとえば以下の例を見てみよう。

- (6) a. I set a goal (**for myself**) to lose 15 pounds by the end of the year.
(平沢 2021: 198 ; 太字引用者)

年末までに 15 ポンド (約 6.8kg) 痩せるという目標を立てた。

- b. I know I shouldn't expect everyone to come up to the mark I set **for myself**.
(平沢 2021: 198–199 ; 太字引用者)

私が自分の目標にしてるレベルにみんながみんな到達できるわけじゃないって、わかってはいるんだけどね。

- (7) [...] now that the future he had imagined **for himself** was changing [...]. (Paul Auster, 432 I)
[...] このとき、ファーガソンにとって、将来の自分像が変わってきていた [...].
- (8) Well, she's [=M.J.'s] been going through a tough time lately. Career. I mean, a singing waitress at a jazz club? It's not exactly what she had in mind **for herself**. (映画 *Spider-Man 3*)
M.J.は最近辛い思いをしているからね。仕事関係で。ほら、ジャズクラブで歌手兼ウエイトレスだろ。本来やりたかった仕事と全然違うからね。

(6) では、目標の達成という経験をする主体が話し手自身であり、その経験の時点が I set の時点よりも未来の時点に位置付けられている。(7) と (8) も同様に分析できる。こうした例は、*for* X-self が「自分 (の力) で」を表しているわけではないので、本稿の分析対象外となる。

2.2. 恩恵を受けるのが X-self

すでに言及した通り、前置詞 for には恩恵を受ける主体を導く用法がある¹。「…のために、…のためになるように、…のために思って」のような意味を表す用法である。以下のような例がこれに該当する。

- (9) a. They sang **for** each other. (Tyler and Evans 2003: 154 ; 太字引用者)
 彼らはお互いのために歌を歌いあった。
- b. He *held* the door *for* her. (小西 1976: 311 ; 斜体原文)
 彼は彼女のためにドアを開けておいた。

この用法は、(5) の 1 つ目の解釈のように相対的未来の用法と重なる場合も多いが、だからといって相対的未来の用法に完全に還元されるべきものではないだろう。たとえば (9b) について丁寧に考えてみよう。この例の自然な解釈は、「彼」は「彼女」が通れるように気を利かせてドアを手でおさえて開けていた、という恩恵の解釈である。このとき、「彼女」の通過という事象が he held という事象よりも相対的に未来に位置付けられるかどうかは、はっきりしない。仮に「彼」がドアを手でおさえて開けていたのが午後 3 時からの 4 秒だとしよう。このとき「彼女」の通過事象が占める時間幅はこの 4 秒とどのような相対関係にあるだろうか？ もちろん、he held の開始の瞬間と通過事象の完了の瞬間を比べれば、後者は前者よりも相対的に未来に位置するだろうが、(9b) は he started holding...と言っているのではない。おそらく自然な見方は、「彼女」の通過事象が占める時間幅は「彼」がドアを開けてくれていた 4 秒の中に含まれる、というものだろう。こうしたことを考えると、(9) は、無理矢理に相対的未来の用法に押し込めるのではなく、あくまでも「…のために」という恩恵の意味を伝達しているもの（相対的未来云々は文の意味とおおよそ関係がない）と解釈するのが自然であるように思われる。こうした用例が存在する以上、恩恵の用法は、相対的未来の用法と重なり合う場合も重なり合わない場合もあるものとして、その独自の存在を認められるべきものである。

さて、恩恵の for の目的語が X-self になる場合がある。以下に例を示す。

- (10) Then why on earth do you want to go to Iraq? Why participate in a war you detest?
 I'm not going there to help America. I'm going **for myself**. (Paul Auster, *Man in the Dark*)
 じゃあいったいなぜイラクに行きたいんだ？ なぜ憎んでいる戦争に参加する？
 アメリカに協力しに行くんじゃないです。自分のために行くんです。
 (柴田元幸 (訳) 『闇の中の男』)

こうした用法は「自分（の力）で」の意味を表しているわけではないので、本稿の分析の対象

¹ 言語学では受益 (benefactive) という用語があてられることも多い。

外となる。

2.3. 好意や尊敬、嫌悪の対象が X-self

好意を表す名詞や、尊敬を表す名詞、逆に嫌悪を表す名詞の中には、感情の対象を前置詞 for で導くのを好むものが多く存在する (admiration, liking など ; respect や reverence など ; hatred, loathing など)。たとえば以下の例では strong men が admiration という感情の向く先となっている。

- (11) Judy's admiration **for** strong men is well-known (Dixon 2021: 104 ; 太字筆者)
ジュディーは屈強な男がタイプだというのは有名な話だ

こうした用法の for の目的語が X-self になる場合がある。たとえば以下の例では respect の対象が自分自身である。

- (12) Stand tall, boy. Have some respect **for yourself**. (映画 *Back to the Future*)
堂々としろよ。もっと自分に対する敬意を持つんだ。

こうしたケースでは for X-self が「自分 (の力) で」という意味を表しているわけではないので、本稿の分析の対象外となる。

2.4. 「X に〈感情〉なことがあったからこっちまで〈感情〉になる」の X が X-self

前置詞 for は、[感情表現+for+人間名詞] というパターンで用いられ、「(人) に〈感情〉なことがあったから、こっちまで〈感情〉になる」の意味を表すことがある。この〈感情〉には「嬉しい」「悲しい」「緊張している」などがありえる。以下に例を挙げる。

- (13) Oh, Darrin, I couldn't be happier for you. (Bewitched, Season 1, Episode 1)
ダーリン、本当におめでとう。

- (14) [状況説明] D.J.は息子 Jackson がコンピューターの専門学校に通いたいと言い出したことに感動して、次のように言う。

There's no question that you have a real talent for computers, but the most important part is . . .
I've never seen you so passionate about something. I think this could be a really smart choice.
I'm excited for you. (Fuller House, Season 5, Episode 13)

ジャクソンにコンピューターの才能があることは間違いないけど、何より嬉しいのは、ジャクソンがかつてないくらいに熱くなってることよ。本当に賢い選択になるかもね。お母さんもわくわくしちゃう。

- (15) Again Blue has an unobstructed view of Black, and seeing that sadness in his face, that look of

absolute dejection, he almost begins to **feel sorry for him**. (Paul Auster, *Ghosts*)

再びブルーにとって視界をさえぎるものが何もなくなり、ブラックがよく見えるようになる、さっきと同じ悲しげな表情、さっきと同じ意気消沈しきった顔が目に入り、同情してしまいそうになる。

- (16) [状況説明] Barney はニューヨーク・ヤンキースの選手ということになっていたのだが、それは嘘だと打ち明ける。

April: So, are you nervous about the game?

Barney: Yeah, I'm nervous **for the other team**, because when I step up to that plate . . .

Look, April, I'm not a New York Yankee.

(*How I Met Your Mother*, Season 4, Episode 1)

エイプリル： 明日の試合のことで緊張してる？

バーニー： ああ、相手チームの緊張を考えると、こっちまで緊張しちゃうね。だって俺がバッターボックスに立つと・・・いや、エイプリル、実は俺、ニューヨーク・ヤンキースの一員なんかじゃないんだ。

たとえば happy for you ならば「you が happy になることがあったからこっちまで happy になる」、nervous for the other team ならば「the other team が nervous になっているからこっちまで nervous になる」ということである。

この用法の for の目的語が X-self になる場合がある。特に feel sorry for oneself は非常に高い頻度で用いられる。自分に悲しい出来事が起こっていることを思って（さらに）悲しくなる、という事態を表し、かたい日本語で言えば「自己憐憫」にあたる。

- (17) a. For as far back as he can remember, his mother has secluded herself in the mornings to do her writing. No intrusions under any circumstances. He used to think of himself as a misfortunate child, lonely and unloved. When they **felt particularly sorry for themselves**, he and his sister used to slump outside the locked door and make tiny whining sounds. In time the whining would change to humming or singing, and they would feel better, forgetting their forsakenness.

(J. M. Coetzee, *Elizabeth Costello*)

思いだすかぎり、彼の母親はずっと昔から、午前中はとじこもって書き物をしていた。いかなる状況においても邪魔は許されなかった。彼は自分のことを不幸な子どもだと思ったものだ。ひとりぼっちで愛されず。彼と妹はとりわけみじめな気持ちになると、鍵のかかったドアの外に座りこみ、めそめそと小さな声を出して泣いた。そのうち泣き声はハミングや歌に変わり、ふたりは気持ちが落ち着いて、ほったらかしにされたことなど忘れてしまう。(鴻巣友季子 (訳) 『エリザベス・コストロ』)

- b. Nelson's three best points are: He's a fantastic cook; he makes me laugh when I'm **feeling sorry for myself**; he has a very kind heart beneath his grumpy exterior; and he appreciates good

manners. Okay, four good points.

(Hester Browne, *The Little Lady Agency*)

ネルソンの特に良いところを3つ言うと…料理が素晴らしく上手なところ。自分の不幸さにしょげているときに笑わせてくれるところ。気難しそうな見た目とは裏腹に、すぐ心が優しいところ。礼儀作法を重んじるところ。うん、4つだったね。

こうしたパターンは、for X-self が「自分（の力）で」の意味を表しているわけではないので、本稿の分析の対象外とする。

2.5. 第2節のまとめ

2節では、for X-self の用法には、「自分（の力）で」以外の意味を表し、本稿の分析の対象外となるものが存在することを確認した。2節で触れていないもの（たとえば「名を成す、名声を得る」の make a name for X-self など）も含めると、for X-self の全体像は壮大である。本稿はその壮大な全体像を解明するものではなく、「自分（の力）で」の意味を表す場合のみを分析対象とすることに注意されたい。

3. X-self を含んだ副詞的表現

本節では by X-self と副詞的な X-self を取り上げ、これらの表現の意味を分析するには対比の相手として想定されているものが何なのかを考えることが有効であるということを指摘する。対比相手を考えるという発想は、4節で詳しく論じるように、for X-self を分析する際に重要なヒントを与えてくれるものである。

なお、本節の内容は 3.3 節で表の形でまとめるので、読み進めながら適宜参照していただくとよいかもしれない。

3.1. by X-self

by X-self の対比の相手として想定されているのは「X以外の人と一緒に」である。たとえば次の例を見てみよう。

(18) [状況説明] Bernadette は夫 Howard とともに Howard の実家を訪れている。

Bernadette: Every time we eat dinner here, your mother refuses to let me help her with the dishes.

Howard: Don't take it personally. She likes doing them **by herself** so she can lick the plates with no one looking.

(*The Big Bang Theory*, Season 6, Episode 7)

バーナデット: ここで夕食を食べると、お義母さんが皿洗いを手伝わせてくれないのよね、いつも。

ハワード: それは気にしなくて大丈夫。母さんは皿洗いを自分1人でやるの

が好きなんだよ、ばれずに皿を舐められるからね。

この *by herself* は Howard の母親が自分 1 人で皿洗いをするということを表しており、その対立相手となっているのは、直前の *Bernadette* のセリフにあるように、Howard の母親が他人と一緒に皿洗いをするのである。このように *by X-self* は「X 以外の人と一緒にではなく自分 1 人で」を表すのである。

3.2. 副詞的な X-self

X-self は再帰代名詞として知られているが、副詞的に用いられることも多い。後者の場合にどのような意味が伝達されるかという点、大きく分けて 2 通りある。

まず、頻度はそう高くないが、*by X-self* と同じ意味を表す場合がある²。たとえば以下の例がそれに該当する。

- (19) [状況説明] Walt と Master Yehudi のやりとり。2 人は車でフィラデルフィアからハリウッドに移動している。Master Yehudi は人のいない田舎道を楽しんでいるが、Walt は退屈で仕方がない。

‘I hate to be a party pooper, sir, but this beauty stuff’s a great big ho-hum. I mean, who cares if a place looks crummy or not? As long as it’s got some people in it, it’s bound to be interesting. Subtract the people, and what’s left? Emptiness, that’s what. And emptiness don’t do a thing for me but lower my blood pressure and make my eyelids droop.’

‘Then close your eyes and get some sleep, and I’ll commune with nature **myself**. Don’t fret, little man. It won’t be long now. Before you know it, you’ll have all the people you want.’

(Paul Auster, *Mr Vertigo*)

「白けたこと言って恐縮ですがね、大自然の景観とか言うけど、これって退屈の極致だと思いますよ。場所が薄汚かろうが何だろうが、どうだっていいじゃないですか。そこに人間がいる限り、きっと面白いこともある。人間を抜いたら、何が残ります？空虚ですよ、空虚。そんなもの俺にとっちゃ、血圧が下がって瞼が垂れるだけです」

「じゃあ目を閉じて眠るがいい。私は一人で自然と対話するから。そんなに苛つくな。いずれはこの風景も終わる。あっという間に、いくらでも人間がいるようになるさ」

(柴田元幸 (訳) 『ミスター・ヴァーティゴ』)

この *myself* は「Walt と一緒にではなく自分 1 人で」の意味を表している。副詞的な *X-self* は、このように、誰か他の人と一緒に行くことと対比されて用いられる場合がある。

副詞的な *X-self* の用法のうち、これよりずっと高頻度なのは、「X 以外の人か〇〇」と対比さ

² この意味の *X-self* の使用頻度が高くないのは、*by X-self* を使えば曖昧性なく伝えられる内容をわざわざ多義的な *X-self* で言うことにコミュニケーション上の動機がないからかもしれない。

れる用法である。この中にはいくつかのパターンが認められるが、ここではそのうち3つを取り上げる。

たとえば、「X-self 以外の人が○○」を前提とした上で「X 自身も○○」という意味を表すパターンである。以下に例を挙げる。

(20) a. [状況説明] Howard の息子は Scientist of the Year Award の受賞が決まっているが……

Howard: Your son is not going to receive that award tomorrow.

Marshall: And why not?

Howard: Because he's not the Scientist of the Year. If anything, he's the *Fraud* of the Year.

Marshall: Howard.

Howard: Oh, you must've suspected the truth **yourself** deep down.

(*Columbo*, Episode 23)

ハワード： あんたの息子が明日、例の賞を受賞することはないだろう。

マーシャル： なぜだ。

ハワード： サイエнтиスト・オブ・ザ・イヤーではないからだ。どちらかと言えば、詐欺師・オブ・ザ・イヤーだからな。

マーシャル： おい。

ハワード： あんただって、心の奥底では真実とうすうす気がついてたんだろ。

b. “He's [=Blue Fairy Godmother is] a pretty big man,” said Derby, who, of course, was a pretty big man **himself**. (Kurt Vonnegut, *Slaughterhouse-Five*)

「なかなかでかい奴だ」とダービーは言った。もちろんダービー自身もなかなかでかい奴だった。

(20a) で Howard は自分 (yourself でない人) が suspect the truth していることを前提として、Marshall (yourself) もまた suspect the truth しているはずだ、と述べている。(20b) の小説の語り手は、Blue Fairy Godmother (himself でない人) が pretty big man であることを前提として、Derby (himself) もまた pretty big man だと述べている。このように、X-self ではない人についての叙述をいったん前提としている点で、この用法の X-self は「X 以外の人○○」と対比されていると言える³。

加えて、「X 以外の人と違って X は○○」というパターンもある。

³ ここでは「対比」という言葉を典型的ではない形で用いている。「対比」という言葉の典型的な使い方では、「X が○○」と「X 以外の人○○でない」のように述語部分が異なっているケースは「対比」であるが、「X が○○」と「X 以外の人○○」のように述語部分が同じであるケースは典型的な「対比」ではないだろう。これに対し本稿では、述語部分がどうであるかは度外視し、異なる二者に注目して比較する場合を広く「対比」と呼んでいる。

- (21) a. She [=Your grandmother] reckons you're developing a bit of an Irish twang, but I don't hear it **myself**. (Eithne Shortall, *Grace After Henry*)

お祖母さんはあなたが鼻にかかったアイルランド英語を話すようになってきてるって思ってるのね。私はそんなふうに感じないけどね。

- b. I understand why people play this game, but I **myself** have no taste for it.

(Paul Auster, *In the Country of Last Things*)

どうして人々がこうした遊びに興じているのか理解はできますが、私自身は好きになれません。

(21a) では、聞き手の祖母という **myself** ではない人が感じていることを、**myself** は感じていない。(21b) では、**myself** 以外の人が好んでいるものを **myself** は好んでいない。やはり「X 以外の人が〇〇」が X-self の対比相手となっていることがわかる。

for X-self との関連で特に注目すべきなのが、「X 以外の人ができるのではなく X 自身がする」を表すパターンである。以下に例を挙げる（同じ例文番号のもとに一括せず (22) と (23) で分けている理由は 4.1 節で明らかにする）。

- (22) [状況説明] 支部長 Michael は意気地なしのため、Stanley にクビを言い渡す役目を部下の Dwight に押し付けた。

Michael: So, how did it go with Stanley? How'd he take it?

Dwight: He wouldn't listen to me.

Michael: Oh, come on.

Dwight: If you want to fire him, you're going to have to tell him **yourself**.

(*The Office*, Season 2, Episode 5)

マイケル : スタンリーはどうだった？ 反応は？

ドワイト : 聞く耳を持ちませんでした。

マイケル : しっかり頼むよ、お前。

ドワイト : クビにしたいなら自分で言わないとダメなんじゃないですか。

- (23) a. [状況説明] Darrin と Sam の娘 Tabatha のハロウィーンの仮装についてのやりとり。Louise は Darrin と Sam の共通の知人。

Louise: And Tabatha looks just like a tiger.

Darrin: Sam made the costume **herself**. (*Bewitched*, Season 4, Episode 8)

ルイーズ : タバサちゃん、本当のトラみたい。

ダーリン : サムが自分で作ったんですよ、この着ぐるみ。

- b. [状況説明] 朝の情報番組で司会者 Robin が言うセリフ。

Now Eunice here makes all of these purses **herself**.

(*How I Met Your Mother*, Season 4, Episode 22)

さて、こちらにいらっしゃるユニースさんですが、なんとこんなにたくさんのハンドバッグを、手作りで作っていらっしゃるんです。

c. Want some pancakes? There's blueberry syrup I made **myself** last year. (Sarah Weeks, *So B. It*)

パンケーキ食べる？ 去年作った自家製ブルーベリーシロップもあるわよ。

d. When you build a house **yourself**, you're going to have a different feeling about it than other people do. (Elizabeth Strout, *Olive Kitteridge*)

自分で家を建てると、その家について他の人とは違った感じ方をするようになる。

e. In Japan the chef must be licensed by the Department of Health. Every year hundreds of people die trying to prepare fugu **themselves**. (*Columbo*, Episode 42)

日本ではフグを調理するには厚生省からの認可がおりないといけないんです。毎年何百人もの人が自分でフグ料理を作ろうとして亡くなっているもので。

(22) で Dwight は、自分 (yourself ではない人) が Michael の代わりにクビを言い渡すのではなく、Michael 自身 (yourself) が言い渡すべきであると主張している。(23) では、業者・プロ (X 以外の人) に作成や調理を任せるのではなく X 自身が作成や調理を行うということが言われている。このパターンでもやはり、副詞の X-self の対比相手は、X 以外の人についての叙述である。

3.3. 第3節のまとめ

3節の内容を表にまとめると、以下のようになる。

表 1. by X-self と副詞的 X-self

	対比の相手	意味	例文
<i>by X-self</i>	X 以外の人 + X 自身	(X 以外の人と一緒にではなく) X だけで	(18)
副詞的 <i>X-self</i>	X 以外の人 + X 自身	(X 以外の人と一緒にではなく) X だけで	(19)
	X 以外の人	(X 以外の人と同じで) X 自身もまた	(20)
		(X 以外の人と違って) X 自身は	(21)
		(X 以外の人に任せるのではなく) X 自身で	(22), (23)

このように、対比の相手として想定されているものが何なのかを考えることによって、by X-self と副詞的 X-self の重なり合う部分とそうでない部分をわかりやすく整理することができる。それでは、本稿のメインの分析対象である for oneself は一体何と対比される表現だと考えるのが妥当だろうか。

4. 「自分（の力）で」の for X-self の分析

本節は本稿のメインとなる節である。まず4.1節で、「自分（の力）で」の for X-self は「X 以外の人が X の代わりに〇〇」を対比相手とし、「他の人に代わりにやってもらうのではなく X 自身が〇〇」の意を表す表現であることを論じる。4.2 節ではこの分析に存在する表面的な複雑さ、ややこしさを明示的に指摘する。

4.1. 「自分（の力）で」の for X-self の対比相手

前置詞 for には人間を目的語として「〈本来その行為をすることになっているはずの誰か〉の代わりに」の意味を表す用法がある。以下の例を見てみよう。

- (24) a. Shall I order **for** you? (映画 *Pretty Woman*)

代わりに注文しておこうか？

- b. [状況説明] 大学生になり一人暮らしを始める Andy が、子供の頃から大事にしてきたカウボーイのおもちゃ Woody を Bonnie という子どもにプレゼントする場面。

Now, Woody, he's been my pal for as long as I can remember. He's brave, like a cowboy should be. And kind. And smart. But the thing that makes Woody special is he'll never give up on you. Ever. He'll be there for you, no matter what. You think you can take care of him **for** me?

(映画 *Toy Story 3*)

このウッディーってやつは、物心ついたところからの相棒なんだ。カウボーイらしく勇敢なやつでね。優しいし、頭もいい。でも何よりウッディーがすごいのは、絶対に人を見捨てないところなんだ。絶対だ。いつでも味方でいてくれるんだ、何があっても。ボニーちゃん、僕の代わりにこいつを大事にしてくれるかな？

(24a) の場面では、本来注文すべきなのは聞き手である。その聞き手に代わって注文をするのが order for you という表現で表されている。(24b) では、話し手が Woody の本来の持ち主であり本来 Woody を大事にする責任を負う。その話し手に代わって Woody を大事にすることが take care of him for me という表現で表されている。

「自分（の力）で」の for X-self の対比相手は、まさにこの用法の for で表されるようなものである。たとえば、以下の例を見てみよう。for X-self が何と対比されているのかが明示されている例である（下線を引いて強調してある）。

- (25) a. [状況説明] 薬局の助手 Denise（と薬剤師 Henry）のアドバイスにしたがって大学のサイエンスコースを受講した Jerry が、試験で A の成績を取った。以下は薬局でお祝いをしている場面。

Pushing cake into his mouth, Jerry told Denise he had gone to mass the Sunday before to pray he did well on the exam.

This was the kind of thing that surprised Henry about Catholics. He almost said, God didn't get an A for you, Jerry; you got it **for yourself**, but Denise was saying, "Do you go every Sunday?" (Elizabeth Strout, *Olive Kitteridge*)

ケーキを口に押し込みながら、ジェリーはデニースに「日曜日にミサに行って試験で良い成績が取れますようにお祈りしておいたんですね」と言った。

ヘンリーがカトリック教徒に驚かされるのはこういうところだ。「神様がジェリーの代わりに A を取ってくれたんじゃないんだぞ。その A は君が自分で取った A だ」と言おうとしたら、もうすでにデニースが口を開いていた。「毎週日曜に通ってるの？」

b. a girl who has no one to think for her is obliged to think **for herself**

(Jespersen 1949: 167 ; 下線, 太字ともに引用者)

代わりに考えてくれる人がいない女の子は自らの頭で考えることを余儀なくされる

(25a) の下線部では get an A for you という表現が用いられている。本来 A の成績を取るべき聞き手に代わって (神が) A の成績を取るということである。太字部分の **for yourself** では、これが否定され、本来通り聞き手自身が A の成績を取るということが表されている。(25b) の下線部では、think for her という表現が用いられている。本来思考をするべき少女に代わって誰か他の人が思考をするということである。太字部分の **for herself** では、これが否定され、本来通り当該の少女自身が思考をするということが表されている。

(25) では、for X-self の対比相手となる for X が先行文脈の中で明示されていたが、明示されていない場合であっても、(25) と同様の分析が成り立つ。

(26) a. [状況説明] 62 歳の信吾 (妻の名は保子) が急にネクタイを結べなくなる。

"Mother," she called, "would you come here, please? Father says he can't tie his tie."

"And why in the world should that be?" Yasuko's face suggested that she had never before been witness to such nonsense. "Why can't he tie it **for himself**?"

(Yasunari Kawabata, *The Sound of the Mountain*)

「お母さまあ、お母さまあ。」と声を上げて呼んだ。

「お父さまが、ネクタイを結べないとおっしゃって……。ちょっと来ていただけませんか？」

「それはまたどうして？」

保子は阿呆らしいという顔で出て来た。

「自分で結べばいいじゃありませんか。」 (川端康成 『山の音』)

b. He [=Foxley] was doing his last year, and he was a prefect [...] and as such he was officially permitted to beat any of the fags in the house. But being in his study, I automatically became his own particular, personal slave. I was his valet and cook and maid and errand-boy, and it was my duty to see that he never lifted a finger **for himself** unless absolutely necessary.

(Roald Dahl, “Galloping Foxley”)

フォクスリーは最終学年で、しかも風紀委員 [...] だった。そのため彼は同じ寮のど
の下級生でも自由に殴ることが公然と認められていた。しかし、自習室まで同じであ
る私は、自動的にフォクスリー専属の奴隷となった。彼の従者兼コック兼お手伝い兼
使い走りとなった私は、フォクスリーがよほどのことがない限り自分では何も手を動
かさずに済むようにしてやるのが義務付けられた。

(26a) の太字部分は文中に表れていない **I tie it for him** と対比されているのだと考えるのが文脈
からして適切だろう。ネクタイを締めるという行為を本来行うべき人は、そのネクタイを着用
する本人であるが、それを代行するというのが **I tie it for him** である。太字部分では、これとの
対比において、本来通りに本人が締めるという意味が表されているのである。(26b) の太字部
分も同様に分析できる。

for X-self は、「自分の目で見て確かめる」の「自分の目で」に相当する意味を表すのに用いら
れることが非常に多いが、このパターンも、「本来 X が得るべき情報を、代わりに他の人に得
てもらうのではなく、本来通り X 自身で得る」を表す文脈で用いられるものであるから、本稿
の分析で十分にカバーできる。以下に例を挙げる。

(27) a. [状況説明] アメリカ同時多発テロ事件の直後の場面。

One Sunday morning, I finally got up the courage to take a walk as far down Greenwich Street
as I could. I wanted to see it **for myself**. Not on a TV screen or in a photograph, but the actual
World Trade Center ruins in all their devastating, physical reality.

(Jessica Hagedorn, “Notes from a New York Diary”)

ある日曜の朝、ようやく私はグリニッジ・ストリートを行けるところまで行ってみる
勇気が出た。自分の目で見ておきたかったのだ。テレビ画面でも写真でもなく、実際
のワールド・トレード・センターが破壊されたのを、絶望しか与えない物理的現実と
いう形で、見ておきたかった。

b. [状況説明] 作家 Sylvia Maxwell の遺した原稿を孫娘の Rosa が編集者 Nick のもとへ
持ってきた。

Well, Rosa says, this book is different from the others. In what way? Nick asks. I don’t know,
Rosa says, in every way. You’ll find out **for yourself** when you read it.

(Paul Auster, *Oracle Night*)

でもこの本はほかのとは違うんです、とローザは言う。どういうところが？ とニッ
クは訊く。うまく言えないけど、何もかもが違うんです、とローザは言う。お読みに
なればわかります。
(柴田元幸 (訳) 『オラクル・ナイト』)

c. “Stillman jumped off the Brooklyn Bridge,” Auster said. “He committed suicide two and a
half months ago.”

“You’re lying.”

“It was all over the papers. You can check **for yourself**.” (Paul Auster, *City of Glass*)

「スティルマンはブルックリン橋から飛び降りた」とオースターは言った。「二月半前に自殺したんだ」

「嘘だろう」

「どの新聞にも出ていたよ。自分で確かめてみればいい」

(柴田元幸 (訳) 『ガラスの街』)

ある事柄について知りたいと思ったら、本来その情報を集めるべきなのは、知りたいと思っているその人自身である。しかし、ある種の事柄については、マスメディアが間に挟まって、その人の代わりに情報を集め、伝えてくれる。これに対し、(27a) の語り手は、そうやって自分以外の人に代わりにやってもらうのではなく、自分自身が情報を集めるのだということを *see it for myself* という表現で表しているのである。(27b) と (27c) でも同様に、他者が代わりに情報を得ることと対比して「そうではなく自分で情報を得る」ということが *for X-self* で表されている。

ここで、ある疑問が浮かび上がってきた読者がいるのではないかと思う。3.2 節で述べたように副詞的な *X-self* は「X 以外の人ではなく X 自身が」の意味を表す。これと、本節で分析している *for X-self* はかなり似ているように感じられるが、まったく同じと言ってよいのだろうかという疑問である。答えは否である。これまでの説明にもあったように、*for X-self* の場合、当該の行為は本来 X 自身がすべきものである（別の人が行った場合には「代わりに」にやっっていることになる）という含みを持つ。副詞的な *X-self* にはこの条件がない。本来 X がすべきことであってもそうでなくても副詞的な *X-self* は使用可能なのである。実は 3.2 節で例文群を (22) と (23) で分けていたのはこの違いを反映してのことであった。(22) は *for X-self* に置き換え可能な例、(23) は *for X-self* に置き換え不可能な例だったのである。以下に (22) を (28) として、(23) のうちの 1 つを (29) として再掲する。

(28) [状況説明] 支部長 Michael は意気地なしのため、Stanley にクビを言い渡す役目を部下の Dwight に押し付けた。

Michael: So, how did it go with Stanley? How'd he take it?

Dwight: He wouldn't listen to me.

Michael: Oh, come on.

Dwight: If you want to fire him, you're going to have to tell him **yourself**.

(*The Office*, Season 2, Episode 5)

マイケル：スタンリーはどうだった？ 反応は？

ドワイト：聞く耳を持ちませんでした。

マイケル：しっかり頼むよお前。

- ドワイト： クビにしたいなら自分で言わないとダメなんじゃないですか。
- (29) Want some pancakes? There's blueberry syrup I made **myself** last year. (Sarah Weeks, *So B. It*)
パンケーキ食べる？ 去年作った自家製ブルーベリーシロップもあるわよ。

(28) の副詞的 *yourself* は *for yourself* に置き換えても文意に違いが生じない⁴。これは、「本来支部長の Michael 自身が言い渡すべき」という意味要素が副詞的 *yourself* には含まれていないにせよ、当該の場面・状況にすでに含まれているため、その意味をはっきりと含んでいる *for yourself* が用いられたところで文意には違いが生じないのだ、と説明できる。これに対して、(29) の *myself* は「自分で」の意味を保ったまま *for myself* に置き換えることはできない。これは、当該の場面・状況（ごく普通の場面・状況）では「ブルーベリーシロップを作るというのは本来自分で行くべきことだ（業者が作ったとしたらそれは代行である）」という想定が働かないため、「代わりにやってもらうのではなく自分で」の意味の *for X-self* が使いにくくなるのだという形で説明できる⁵。(29) として取り上げたものだけでなく、3.2 節の (23) に挙げた例はすべて、文意を保ったまま *for X-self* に置き換えることができない例であるが、これは、食品製造や建設といった業者・プロの仕事を「代わりにやっていること、代行業業」のように捉えることが普通でないということに起因するものと思われる。着ているものについて「これ、自作なんだ」と言っている人に対して「え、自作なの!？」と驚くのは自然であるのに対して、「これ、買ったものなんだ」と言っている人に対して「え、買ったの!？」と驚くことは普通ないだろう（むしろ普通の反応は「なんでそんな当たり前のこと言うの?」だろう）。美味しいジャムをくれた人に「これ、自作なの」と言われたら「え、自作なんて意外!」とは思いますが、「これ、

⁴ その証拠に、ツイッターで “tell him for yourself” や “tell her for yourself” と検索すると、「自分の代わりに {彼/彼女} にこれこれと伝えてくれ」というツイートへの否定的な返答として tell {him/her} for yourself と答えているツイートがいくつも見つかる。

⁵ このように、*for X-self* は「代わりに」の否定バージョンとして理解して初めてその意味を正しく把握できるのであるが、この「代わりに」という概念自体、「本来通りではなく」というように否定を含んだものである。したがって、「代わりに」を否定する *for X-self* は一度否定したものをさらに否定するようなものである。たとえば (26a) の *tie it for himself* であれば、「ネクタイを結ぶ動作を、本来通りではなく私が代わりにやってあげる、というのではなく」ということである。

量的な証拠に基づく議論をする準備はできていないが、筆者が観察する限りでは「自分(の力)で」を表す *for X-self* は否定文中では用いられにくいように思われる。もしこの観察が正しいのであれば、その理由は *for X-self* 自体が「否定の否定」という複雑な意味構造を持つため、それをさらに否定すると意味構造があまりに入り組み、理解しにくくなるからだろう。

「自分(の力)で」を表す *for X-self* は否定文中では用いられにくいという観察を裏付けうるデータが、小西(編)(2006)の中で柏野健次氏によって提示されている。

- (i) インフォーマント調査(12名)によると、*Jim didn't do his homework for himself* を「ジムは独力で宿題をしなかった」と解釈する人は少なく、多くの方は「ジムは自分のためにではなく、(例えば)先生のために宿題をした」と解釈するという結果が出ている。(小西(編)2006: 790; 斜体原文)

柏野氏はこのデータから *for X-self* は「独力で」の意味よりも「自分のために」の意味で用いられやすいという結論を導いているが(そしてその結論自体は正しいと思われるが)、(i) のデータだけからは、*for X-self* が否定文中で用いられにくいという結論も導き出せる。最終的にはもっと多くのデータと統計的な議論が必要になるが、少なくとも筆者の観察を裏付けうるデータではある。

買ったものなの」と言われた場合には「え、買ったなんて意外！ どうして自作しないのだろう？」とは普通思わない。このように、衣類を作る、ジャムを作る、などある種の行為には「そもそも普通は業者がやるもの」という意識が働くのである⁶。

4.2. for の目的語の対比に見えて実は行為主体の対比

以上の分析は実例を見る限りでは正しいものであるように思われ、「自分（の力）で」の for X-self の現実を適切に捉えたものであると言えるだろう。しかし、よく考えてみると、この分析は相当複雑なことを言っていることになる。

比較のために、本稿のメインの分析対象外とした for X-self のいくつかの用法を振り返ってみよう。(10) と (12) を (30) と (31) として再掲する。

- (30) Then why on earth do you want to go to Iraq? Why participate in a war you detest?
I'm not going there to help America. I'm going **for myself**. (Paul Auster, *Man in the Dark*)
じゃあいったいなぜイラクに行きたいんだ？ なぜ憎んでいる戦争に参加する？
アメリカに協力しに行くんじゃないです。自分のために行くんです。
(柴田元幸 (訳) 『闇の中の男』)
- (31) Stand tall, boy. Have some respect **for yourself**. (映画 *Back to the Future*)
堂々としろよ。もっと自分に対する敬意を持つんだ。

これらの用法で myself と yourself は America と other people と対比されている。「アメリカのためではなく自分のために」「他人に対してではなく自分に対して」ということである。for の目的語の位置にある X-self 「X 自身」といういかにも X 以外のものと対比されていそうな名詞が、しっかりと X 以外のものと対比されている。

しかし、「自分（の力）で」の for X-self はそうではない。たとえば (26) をもう一度見直してみよう。以下に (32) として再掲する。

- (32) [状況説明] 62 歳の信吾（妻の名は保子）が急にネクタイを結べなくなる。
“Mother,” she called, “would you come here, please? Father says he can't tie his tie.”
“And why in the world should that be?” Yasuko's face suggested that she had never before been witness to such nonsense. “Why can't he tie it **for himself**?”
(Yasunari Kawabata, *The Sound of the Mountain*)
「お母さまあ、お母さまあ。」と声を上げて呼んだ。
「お父さまが、ネクタイを結べないとおっしゃって……。ちょっと来ていただけませんか？」

⁶ 言語学の用語を使って言い直せば、for X-self を適切に理解・使用するためにはこうした「百科事典的知識」(西村 2015: 189; Haiman 1980) が必要だということである。

「それはまたどうして？」

保子は阿呆らしいという顔で出て来た。

「自分で結ばばいいじゃありませんか。」

(川端康成『山の音』)

ここでは「私 tie it for 信吾」と「信吾 tie it for 信吾自身」が対比されているのであるから、対比になっているのは tie it という行為の主体が誰なのかであって、for の目的語である himself の部分が他の誰かと対比されているわけではない。このように、一見 for の目的語の対比に見えて実は行為主体の対比になっているところが、本稿の扱っている for X-self の難しさである。

(30) と (31) で見たタイプを仮に用法 A の for X-self と呼び、(32) で見たタイプ (本稿でメインの分析対象としているタイプ) を仮に用法 B の for X-self と呼んで二分するならば、上で述べた2通りの「対比」のあり方は図1のように図示できる。(a) と (a') の図は用法 A に、(b) と (b') の図は用法 B に対応する。

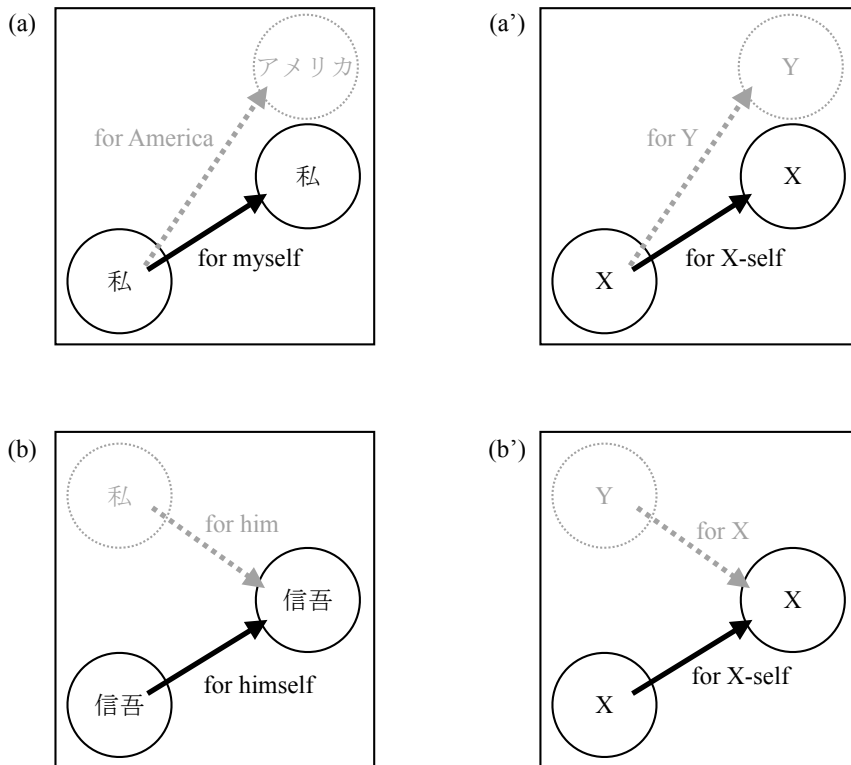


図1. for X-self の用法 A (a, a') と用法 B (b, b')

この図の重要な点は、点線部分が for X-self の対比相手に対応しているということである。(a) は (30) に対応する図で、ここでは for myself が for America と対比されていることが表されている。(a') は (a) を一般化して (30) に限らず用法 A の for X-self の性質を捉えられるようにしたものである。(b) は (32) に対応する図で、ここでは for himself が「私」が信吾の代わりに

ネクタイを結んでやるという意味での) for him と対比されていることが表されている。(b') は (b) を一般化して (32) に限らず用法 B の for X-self の性質を捉えられるようにしたものである。

このように図にしたところで、やはり用法 B (図 1(b)(b')) のつむじ曲がりな感じは消えない。矢印の先は X のまま変わっておらず、変わっているのは矢印の原点の方 (行為の主体の方) なのに、for の目的語の方が X-self というマーキングを受け、まるで行為の対象に対比が起こっているかのような表現がされるのである。こうした複雑さとどのように向き合うべきだろうか。

5. for X-self 以外の表現の用法 A と用法 B

4.2 節で確認した複雑さゆえに、4.1 節で提示した分析はそもそも誤っているのではないかと思えてくるかもしれない。しかし、本節で指摘するように、英語には用法 A と用法 B に相当する 2 つの用法を持つ表現が for X-self 以外にも複数あるのである。

5.1. X's own N

たとえば X's own N という表現をよく観察してみよう。(33) の用法はおそらく日本人の英語学習者にも馴染み深いものである。

(33) [状況説明] ホテルに宿泊している語り手は、同じホテルに泊まっている有名人の Lindy の部屋から戻ってきた。

Back in **my own** room, I took a Coke from the mini-bar, sat down at the writing desk and looked out my window. (Kazuo Ishiguro, "Nocturne")

おれは部屋に戻ると、ミニバーからコーラを一本取り、書き物机のまえに座って窓の外を眺めた。(土屋政雄 (訳) 「夜想曲」)

この例では my room (X's N) と Lindy's room (Y's N) が対比されており、その対比関係ゆえに my own room (X's own N) という表現が用いられている。重要なのは、X の N が、my 以外の人 Y の N と対比されているということである。

これに対して、以下の例はどうだろうか。たとえば (34a) の your own dinner (X's own N) は you 以外の人 Y の dinner (N) と対比されているだろうか。

(34) a. Darrin: Give a yell when dinner's ready, huh?
Samantha: Fix **your own** dinner. (Bewitched, Season 2, Episode 2)

ダーリン: 夕食の支度ができたら大きな声で呼んでくれよな。

サマンサ: 夕食の支度はご自分でどうぞ。

b. [状況説明] 語り手 (当時 12 歳) と妹 Rosie のやりとり。

'I'm hungry,' said Rosie. 'Can you make me a snack?'

'Get **your own** snack,' I snapped. 'I'm not your servant.' (Susin Nielsen, *My Messed-up Life*)

「お腹すいた」とロージーは言った。「おやつ作ってくれる？」

「おやつくらい自分でなんとかしなさい」と私はピシヤリと言った。「私はあんたの召使いじゃないんだよ」

- c. [状況説明] 話し手は、ココアではなくコーヒーを飲むと言ったところ、父親に驚かされた。

Dad, I'm almost 16. I've been to Europe. I really think I'm old enough to choose **my own** beverage. (Full House, Season 6, Episode 1)

パパ、私もうすぐ 16 歳だよ。ヨーロッパにも行ってきたし。絶対さあ、自分の飲み物ぐらい自分で選んでいい年齢だと思うんだけど。

- d. [...] there were frequent visits to the house from other young adults. They were female, and mostly came one at a time, though occasionally in pairs. A hire driver might bring them, or sometimes they would come driving **their own** car [...] (Kazuo Ishiguro, *Klara and the Sun*)
[...] 若いお客様が頻繁に訪れるようになりました。いずれも女性で、多くの場合は一人、ときに二人連れでやってきます。ハイヤーで乗りつけることもありますし、自分で車を運転してくることもあります。(土屋政雄 (訳) 『クララとお日さま』)

- e. [状況説明] Casey と、金にがめつい友人 Eleanor の会話。

Casey: Hey, a bunch of us are going to go see *Spider-Man 2* tonight. Do you want to come?

Eleanor: They made a second *Spider Man*? What is there left to say? Sure, whatever, I'm in.

Casey: Cool, OK, well, I'll get tickets for the eight of us and you can just pay me back in cash.

Eleanor: So, you can get all the points on your credit card, and the rest of us get screwed? No way.

Casey: No, it's just so we can all get tickets before they sell out. Do you want to buy them?

Eleanor: So you guys can never pay me back and I'll be out, like, 80 bucks? Nice try. I'll buy **my own** ticket. (*The Good Place*, Season 1, Episode 9)

ケイシー：あのさ、今日の夜みんなで『スパイダーマン 2』観に行こうって話になってるんだけど、来る？

エレノア：『スパイダーマン』の 2 作目なんて作ったの？ もうネタ切れのはずでしょ。ま、いいや、オッケー、行く。

ケイシー：わかった、それじゃ、私が 8 人分チケット取っておくから、あとで現金でちょうだい。

エレノア：そうやってクレジットカードのポイントを独り占めして、残り 7 人は騙し取られるってわけ？ ふざけんじゃないわよ。

ケイシー： いや、売り切れちゃう前に全員分のチケットをゲットできるようにって思ったのよ。じゃあかわりに買ってくれる？
 エレノア： あんた、払わずに逃げ切って私に 80 ドル損させようって魂胆ね。バレバレよ。私、チケットは自分で買うから。

これらの例では、X's own N が X 以外の人 Y の N と対比されているのではない。同じ X's N を X が〇〇するか、X 以外の人 Y が〇〇するかが対比になっているのである。たとえば (34a) では Samantha は Darrin に対して「他の人の夕食ばかり作ってないで自分の夕食も作ったら」と言っているのではない。Darrin の夕食について「私が作るのではなくあなたが作って」と言っているのである。(34e) では、Eleanor が Eleanor 自身のチケットを買うか他人のチケットを買うかが問題になっているのではない。Eleanor のチケットを Eleanor 自身が買うか他人 (Casey) が買うかが問題なのである。

以上のことは、for oneself の用法 A と用法 B に相当するものが X's own N にも存在する ((33) は用法 A タイプ, (34) は用法タイプ B の例) ということである。この実情は for oneself と似た形で図 2 のように図示できる。(a) と (a') は用法 A, (b) と (b') は用法 B に対応する。

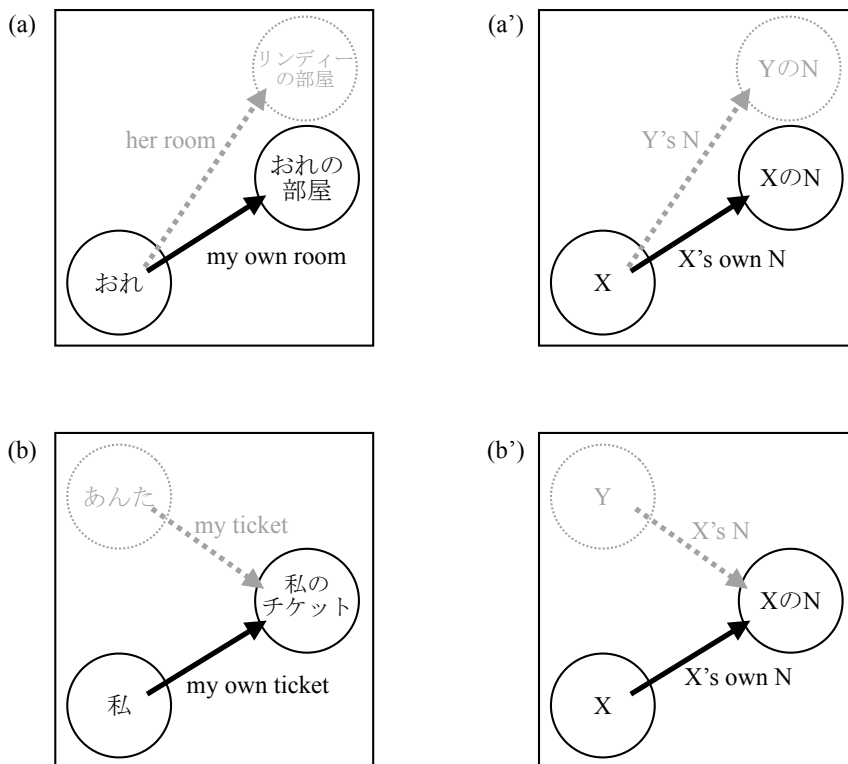


図 2. X's own N の用法 A (a, a') と用法 B (b, b')

図 1 と同様に、点線部分に注目されたい。(a) は (33) を図示したもので、ここでは、「おれ」

の移動先としての「おれの部屋」を表す *my own room* が「おれ」の移動先としての「リンディーの部屋」を表す *her room* と対比されていることが表されている。(a') は (a) を一般化して (33) に限らず用法 A の X's own N の性質を捉えられるようにしたものである。(b) は (34e) を図示したもので、ここでは、「私」が購入する「私のチケット」を表す *my own ticket* が、「あんた」(ケイシー) が購入する場合の「私のチケット」を表す *my ticket* と対比されていることが表されている。(b') は (b) を一般化したもので、(34e) に限らず用法 B の X's own N の性質を捉えられるようにしたものである。

このように X's own N という表現は用法 A と用法 B という複雑な多義性を持つ。そしてこの多義性は、図 1 で for oneself に関して見た多義性と本質的には何も変わらないと言えるものである。

5.2. V X-self

[他動詞+目的語]の目的語が再帰代名詞であるパターンにも実は同様の多義性が見られる。たとえば (35) と (36) を比較してみよう。

- (35) He finished his drink at a gulp and stood up. "I've got to run, Marlowe. Besides I'm boring you and God knows I'm boring **myself**." (Raymond Chandler, *The Long Goodbye*)

彼はぐいと一息で飲み終え、立ち上がった。「そろそろ行かないといけないんだ、マローウ。それに僕のせいで君も退屈してるだろうし、僕が僕に退屈している」

- (36) [状況説明] 人間ではない生命体の発話。

Twenty minutes observing humanity. I'm already bored. I guess I'm just going to have to amuse **myself**. (Star Trek: *Voyager*, Season 7, Episode 18)

人間とやらを 20 分観察しただけでもう退屈になっちゃった。こりゃあ一人で遊ぶしかないかな。

(35) は話し手が話し手以外の人を bore するか自分自身を bore するかが対比になっている(用法 A タイプ)。一方、(36) では amuse の対象は対比のポイントではない。対比になっているのは話し手を amuse する主体の方である(用法 B タイプ)。人間とやらが話し手を amuse するか、話し手が話し手を amuse するかが問題なのである⁷。

⁷ 用法 A と用法 B が異なる用法であることを示す事実を 1 つ提示したい。用法 A の X-self は X に置き換えることができないのに対して、用法 B の X-self は X に置き換えることができるのである。たとえば、ディスカバーカードのテレビ CM の 1 つでは、At Discover, we treat you like you'd treat **you**. というセンテンスが用いられている。顧客への丁寧な対応を約束する文言であろう。ここでは、CM を見ている「あなた」を「私たち」Discover 社が扱う場合と「あなた」が扱う場合が比較されているのであるから、用法 B の X-self と同じようにして X が用いられている例と言える。

なお、you'd treat you では treat の主語も目的語も同じ人間を指しているのだから、you'd treat yourself にしなくてもよいということが意外に思われるかもしれない。you'd treat you が認められるのは、おそらく、like の前後で "treat you" の部分を揃えることによって、対比が起こっているのは treat の(目的語ではなく)主語の位置であることをわかりやすくすることができるからだろう(実際、you'd には対比の音調核 (Wells 2006: 124-129) が置かれ、

V X-self の用法 A と用法 B は図 3 のように図示できる。(a) と (a') が用法 A に、(b) と (b') が用法 B に対応している。

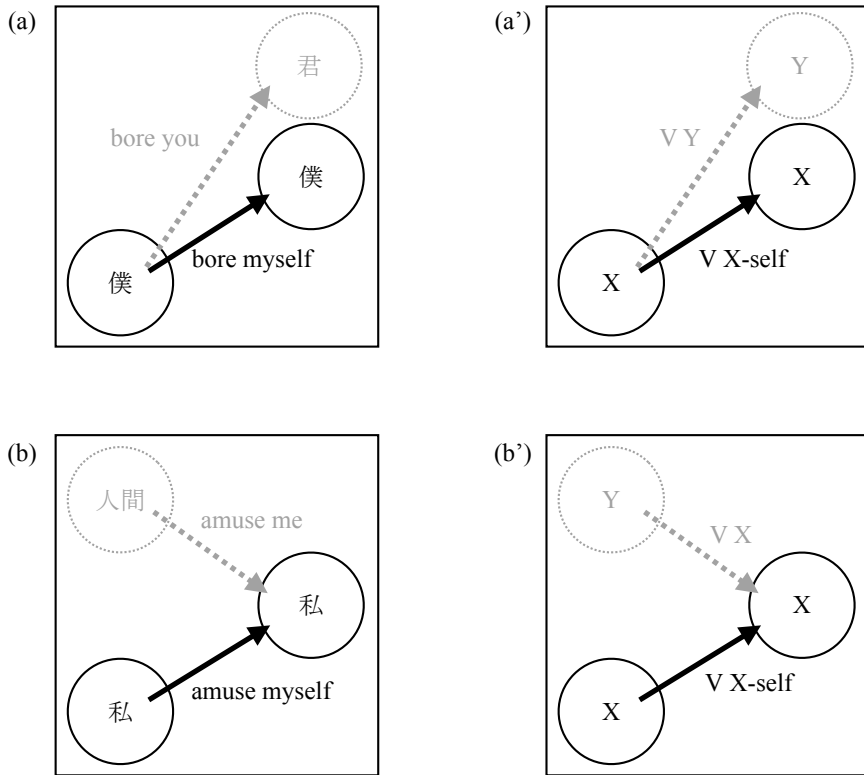


図 3. V X-self の用法 A (a, a') と用法 B (b, b')

図 1, 図 2 と同様に、点線部分に注目されたい。(a) は (35) を図示したもので、「僕」が「僕」を退屈させる bore myself は「僕」が「君」を退屈させる bore you と対をなす形で用いられているということが表されている。(a') は (a) を一般化して、(35) に限らず用法 A の V X-self の性質を捉えられるようにしたものである。(b) は (36) を図示したもので、「私」が「私」を楽しませる amuse myself は「人間」が「私」を楽しませる場合の amuse me と対をなす形で用いられているということが表されている。(b') は (b) を一般化して、(36) に限らず用法 B の V X-self の性質を捉えられるようにしたものである。

このように、for X-selfに見られる複雑な多義性は X's own N と V X-self にも見られることを考えると、4.1 節で提示した仮説はただ複雑だからという理由で退けられるべきものではないだろう。それよりも、英語のこの複雑な現実を受け入れた上で、どのような経緯でこうした複

高いピッチから低いピッチへの急激な下降が生じている)。

同様の原理で説明できる I want me to be elected. という英文の容認性について (イントネーションとの関連も含めて) Langacker (1987: 37) も参照されたい。

雑な多義性が発達し広まっていったのか、その歴史を研究する方がよほど有意義であるように思われる。なお、筆者は少なくとも現時点ではこの歴史的発達についての検証可能な仮説を持っていない。

6. 先行研究

本節では、「自分（の力）で」の for X-self に関して先行研究で指摘されていることについての筆者の見解を述べる⁸。なお、英語学習のために本稿を読まれている読者は、この節を飛ばして7節に進んでいただいても構わない。

6.1. 「自分のために」説

1節でも触れたが、「自分（の力）で」の for X-self は「自分のために（なるように）」「自分にとっての利益になって」というニュアンスを伴うと古くから主張されてきた。ここには多くの英語辞典に加えて、石橋ほか（1966: 969-970）も含まれる。またインターネット上の英語学習サイトで英語母語話者と思われるユーザーが同趣旨の主張をしているのも見かける。

しかし、「自分（の力）で」の for X-self が用いられている文は、結果的に X のためになっていることを表すわけでもなければ、X のためになることを狙って何かをすることを表すわけでもない。まず次の例（3）の再掲）を見てみよう。

- (37) a. I saw it **for myself** and I wish I hadn't. (インフォーマント提供)
私はそれを自分の目で見てしまった。見なければよかったと後悔している。
- b. My father was an explorer and told me all about the pyramids in Egypt. I went to see them **for myself**, but they were not as good as I had expected. (インフォーマント提供)
父親は探検家で、僕にエジプトのピラミッドのことを色々教えてくれた。それでこの目で見ようと実際に行ってみたのだけれど、期待していたほど良いものではなかった。
- c. I thought about it **for myself** but realized that I was wasting my time; I would not be able to come up with a better solution than the experts. (インフォーマント提供)
私はこの問題について自分の頭を使って考えたが、こんなことをしても時間の無駄だと気付いた。専門家よりも良い解決策なんて、どうせ思いつかない。

これらの例は英語母語話者のインフォーマントによる作例で、結果的に X にとっての利益にならなかったということが明示されている。次の例は（2）の再掲である。

- (38) a. Come and see **for yourself**. Not that it'll do you any good. (筆者作例)

⁸ 柏野（2010: 65-66）は for oneself に対して「(他人に頼らないで) 自分で」という訳語をあてており、本稿と同じ意味理解をしている可能性もあるが、どのような場合に for oneself が使えるのか、for の意味はどう関わっているのかといったことについて言及がないため、本節で正面を切って扱うことができない。

こっち来て自分の目で確かめてみなよ。まあ見たところで良いことがあるわけじゃないけど。

- b. **With no one to rely on, he had no choice but to decide for himself, though he knew it wouldn't do anyone any good, including himself.** (筆者作例)

頼れる人が誰もいない彼は、自分で決める以外なかった。自分で決めることで自分を含めて誰も何も得をしないことはわかっていたが。

この例は、X の利益になることを狙って {see/decide} するということが言われているわけではないのが明らかであるように筆者が作り込んだものであるが、英語母語話者 2 名により自然であると判断された。

このような事実を踏まえれば、「ためになる」仮説が維持できないのは明らかだろう。この明らかな誤りが長年に渡って引き継がれてきてしまったのには、少なくとも 2 つの理由が考えられる。

1 つには、2.2 節で見た for の恩恵用法の頻度が非常に高く、また基本的な用法であるように感じられるため、「自分（の力）で」の for X-self も恩恵用法の一種として説明できるはずだという想定、または説明できてほしいという願望が（無意識のうちに）あまりに強く働き、(37) や (38) のような検証を行おうという発想が思い浮かびにくくなってしまっていたという可能性がある⁹。

もう 1 つには、「ためになる」仮説を唱える分析者は、「X が恩恵を受ける」の意味ではなく「X が恩恵を受けるかどうかはさておき、普通に考えて恩恵を受ける人が多いと思われる」の意味で「X のためになる」という言い方をしているのだ（そのような表現選択の誤りを犯してしまっているのだ）という可能性がある。この線でいくと、たとえば (38a) の see for yourself であれば、話し手は「(聞き手がどうかはさておき) 多くの人は自分の目で見て確かめるということによって恩恵を受けるものだ」という想定を持っているのだ、と考えることになる。確かにこれならば Not that it'll do you any good を続けて聞き手自身への恩恵を否定しても矛盾は生じない。そのため、for X-self の意味を記述するにあたって、「本来 X がすべきことを他の人に代行してもらうのではなく本来通り X が行う」という意味要素に加え、「X が恩恵を受けるかどうかはさておき、普通に考えて恩恵を受ける人が多いと思われる」という意味要素を含めることも可能ではある。しかし、後者の意味要素は「本来本人がすべきであることを本人がする」という前者の意味要素から自然と導かれるものであるから、意味記述に含める必要性はないだろう。

このように整理すると、「X が恩恵を受ける」ことと「X が恩恵を受けるかどうかはさてお

⁹ これは、前置詞 by の様々な用法が「そばに」という空間義から説明できてほしいと強く願うあまりに、事実と反する言説（たとえば「He was there by five o'clock は彼の到着時刻が 5 時に近いことを含意する」や「He saw them pass by は he と them の距離が近い場合に用いる」など）や意味をなさない言説（たとえば「bit by bit は bit と bit が近いことを意味する」）が提出されてしまっていることと似ている（詳しくは平沢 2019 を参照）。

き、普通に考えて恩恵を受ける人が多いと思われる」ことを混同した言い方をする人など本当にいるだろうか、もしいたとしてその表現選択の誤りが長年に受け継がれることなどあるだろうか、と疑問に思えてくるかもしれない。この二者が別物であるのはいかにも当たり前のことではないか、と。しかし、この二者が別物であることが当然に見えるのは、この二者を筆者の方であらかじめ区別して提示したからだろう。この二者は (for の研究に限らず) 多くの研究において混同されているように思われる。さらに、別稿で論じる予定の内容だが、「X が迷惑を被る」ことと「X が迷惑を被るかどうかはさておき、普通に考えて迷惑を被る人が多いと思われる」ことを混同しているために前置詞 on を適切に分析できていない先行研究もある。for X-self に関して「ためになる」仮説が長年に渡って引き継がれてきたことの背後には、言語分析の根深い問題が横たわっているように思われる。

6.2. 「for は余分だ」説

for X-self の for は余分であり、同じ文意は副詞的 X-self で伝達できるという説も存在する。たとえば Malmstedt (1898) は ‘dead letter’, Poutsma (1916: 871–872) は ‘superfluous or inorganic’ であるとしてこの for の意味的な貢献を否定している。

筆者はこの考え方に部分的に賛成し、部分的に反対する。まず、文意に大きな違いが生じないことについては同意できる。4.1 節で主張したように「自分 (の力) で」の for X-self は「本来 X がやるべきことを他人に頼んでやってもらうのではなく、本来通り X 自身がやる」ことを表し、かつ、3.2 節で見た通り副詞的 X-self は「ある行為を他人がするのではなく X 自身がする」という意味を表しうる (それを用法の 1 つに持つ) のであるから、for X-self がカバーする使用範囲は副詞的 X-self の使用範囲よりも狭いということになる。これはつまり for X-self が使えるならば副詞的 X-self が使えるということである¹⁰。実際、for X-self の実例を見ても、副詞的 X-self で代用可能と (基本的には) 言えそうである¹¹。

しかし、4.1 節の後半ですでに論じたように、副詞的 X-self は「本人 vs. 他人」という対立にとどまる (文脈の側に「本来の行為者である本人 vs. 代行者である他人」という対立がある場合はあるが、それでもその対立は X-self 自体が担っている意味ではない) のに対して、for X-self は「本来の行為者である本人 vs. 代行者である他人」という対立の構図を内包する。したがって、(文全体の意味としては概ね等しくなるとはいえ) 副詞的 X-self それ自体の意味と for X-self それ自体の意味がまったく同じであるとは言えない。この意味で、for X-self の for をノイズ扱いするというのであれば、それには筆者は賛成できない。

¹⁰ 「副詞的 X-self が使えるならば for X-self が使える」が成り立たないことは 4.1 節の最後で確認した通り。

¹¹ 「基本的には」としたのは、たとえば「自分で見てみなよ！」の意味では See for yourself! のほうが See yourself! よりもはるかに高頻度であり自然であるというように、実際には for X-self を副詞的 X-self で代用しない方がよいことも多いからである。for X-self を使うことが慣習化している言い回し (7 節参照) においては、for X-self を使うようにした方がよい。

6.3. 「助けを借りず」説

Stoffel (1902) は for X-self の意味を「他者からの助けを借りずに」の意味であるとしているが、for X-self は次の実例が示すように「助けを借りながら」を表す表現と共起できるので、この分析は単純に誤りだろう¹²。

(39) [状況説明] 食品会社の Barilla は、テニスの Roger Federer 選手の試合で “Roger . . . Would you like to have dinner with me tonight? I’ll cook!” と書かれたカードを持って応援していた女性ファンを探し出し、一流シェフによるレッスンを受けさせた上で、Federer と会わせた。以下はこのことを伝えるウェブ上の記事。

It’s common knowledge that Roger Federer is one of the nicest, down-to-earth legends in sports. One fan found that out **for herself** with a little help from Barilla.

(<https://www.tennis.com/baseline/articles/federer-cooks-with-fan-who-asked-him-out-to-dinner>)

よく知られているように、ロジャー・フェデラーはスポーツ界のレジェンドの中でも特に人に優しく、気取らない人柄だ。あるファンは、少しだけバリラの手を借りつつ、自分の目でそれを確かめることになった。

本稿の分析では、for X-self が「助けを借りながら」を表す表現と共起できることは何の問題にもならない。「本来行うべき行為を他の人に代行してもらうのではなく、本来通り自分が行った」と言っている人がたとえ誰かから援助をしてもらっていたとしても、嘘を言っていることにはならないからである。

7. まとめと英語学習者にとっての注意点

本稿の内容をまとめよう。by X-self と副詞的 X-self の意味が対比相手を把握することによってより良く理解できる (3 節) のと同じように、「自分 (の力) で」の for X-self の意味も、「本来 X が行うべきことを他人が代わりに行う」ことが対比相手として想定されているのだということ把握することによって、より良く理解できる (4.1 節)。このように for X-self が「本来 X が行うべきことを他人が代わりに行うのではなく、本来通り X 自身が行う」という意味を持っているのだとすると、「他人 vs. X 自身」という対立が起こっているのは for の目的語に関してではなく、問題となっている行為を行う主体 (典型的には文の主語) に関してだということになる (4.2 節)。これと類似した複雑さは、for X-self に限らず X’s own N や V X-self など他の英語表現にも見られるのであるから、本稿の分析の怪しさを示すものではない (5 節)。これまで X-self に関して提出されてきた説には「X のためになるというニュアンスを含む」などいくつ

¹² このあと文献調査を行おうとする読者のために追記しておく、井上 (編) (1960:416) はこの Stoffel の議論を紹介するにあたって Stoffel (1894) を引用したとしているが、この議論が行われているのは (筆者の見落としてみれば) Stoffel (1894) ではなく Stoffel (1902) である。

かあるが、どれも本稿が提示した言語事実を説明する能力を持たない（6 節）。本稿の分析は、少なくとも観察されている限りの言語事実に関しては説明を提供するものであるが、説明の適用対象はあくまで「自分（の力）で」を表す for X-self に限定される（2 節）。for の目的語が X-self になっていればすべて本稿の分析で説明が可能になると言っているわけではないことに注意されたい。

最後に、英語学習者にとって注意すべき点を補足しておきたい。本稿は「自分（の力）で」を表す for X-self 単体の性質を探求してきた。それは see for X-self にも think for X-self にも tie for X-self にも共通して見られるような、for X-self の「本質」とでも言いたくなるような性質である。以下の図のように整理するならば、枝分かれの大元にある部分を追求してきたわけである（枠線の太さの意味については後述）。

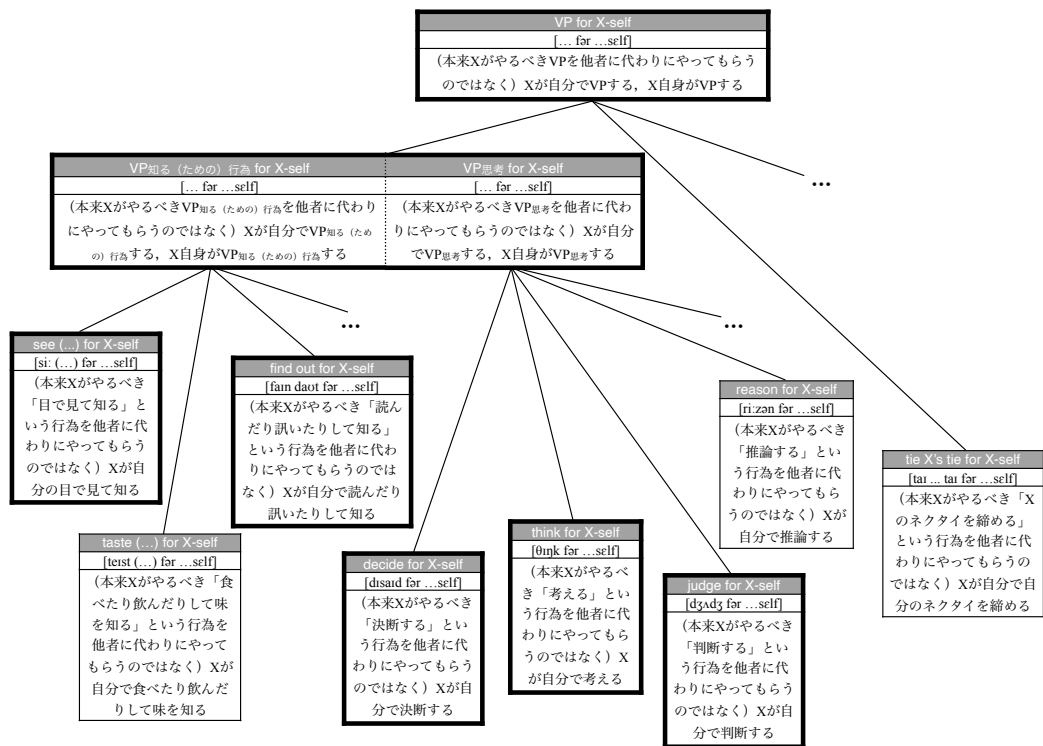


図 4. [VP for X-self] の知識の構造¹³

この一番上の知識、つまり for X-self 単体の本質的な知識が言語使用の現場で活躍する場合もある。たとえば、”I tied my tie for myself.” という文を発話した話し手は、脳内で for X-self の知識にアクセスしたうえで、tie one’s tie という表現と足し合わせるという足し算を行ったのだろう。

¹³ [VP 知る (ための) 行為 for X-self] と [V 思考 for X-self の] 境界が点線になっているのは、この2つのタイプは明確に区別することができない（そして区別しようとしたところで母語話者の知識のあり方を反映していることにはならない）ように思われるためである。

tie one's tie for X-self という言い回し、フレーズを丸ごと記憶していてその丸ごとの知識にアクセスしたという可能性は低いと思われる。tie one's tie for X-self は頻度の低い表現であり、話者の脳内で定着している知識ではないと考えられるからである。こうした知識の定着の度合いの違いを反映して、上の図では for X-self は太枠で、tie one's tie for X-self は細枠で表示している。

しかし、注意しなければならないのは、英語母語話者が for X-self を含んだ文を発するとき、必ずしも for X-self 単体の本質的な知識が利用されているとは限らないということである。for X-self よりも大きな言い回し、フレーズの知識が利用されている場合も多いだろう。たとえば“See for yourself, John!” という文を発話した話者は、see for X-self という言い回し、フレーズの知識にアクセスしたのであって、「for X-self 単体の知識にまずアクセスして、そのあと see と足し合わせる」という足し算のプロセスを経たのではないと思われる。このように考えられるのはなぜかという点、see for X-self は使用頻度が高く、絶えず目や耳に入ってくる表現であり、こうした高頻度表現の知識は脳内における定着の度合いが高く、アクセスしやすい知識だからである（このことは see for X-self の枠の太さに反映されている）。もちろん上述の通り for X-self 単体の本質的な知識も高一度合いで定着しているのだが、一般に、定着している知識の中で言うより具体性の高い知識の方が優先的にアクセスされる傾向があるのである（Langacker 1987: 414, Langacker 2000）。そのため、for X-self も see for X-self もともに定着しているのであれば、より具体性の高い（つまり枝分かれの先の方にある）see for X-self の方が、言語使用の現場で優先的に利用されると考えられる。これは、日本語母語話者が「治安が良いところに住みたいね」と発話するとき、「治安」という名詞単体の本質的な知識（特定の地域の安全性を指すという知識）にアクセスしたあとに「が」および「良い」と足し合わせるという足し算のプロセスを経ることなく、ひとつ飛びに「治安が良い」という言い回し、フレーズの知識にアクセスしていると考えられるのと同じ話である（平沢 2021: 7-23 ; 平沢 2022）。

上の図で太枠で表示されているものの中には、see for X-self 以外にも think for X-self など具体性の高い表現が複数含まれている。こうした表現は丸ごと記憶され、言語使用の現場で直接アクセスされているであろう高頻度な表現である。for X-self 単体の本質に関する知識だけでなく、こうした具体的な言い回し、フレーズを覚えることもまた、for X-self を使って滞りのない言語運用を行うためには欠かすことができない。

参考文献

- Dixon, R. M. W. (2021) *English prepositions: Their meanings and uses*. Oxford: Oxford University Press.
- Goldberg, Adele E. (2019) *Explain me this: Creativity, competition, and the partial productivity of constructions*. Princeton and Oxford: Princeton University Press.
- Haiman, John (1980) Dictionaries and encyclopedias. *Lingua* 50: 329-357.
- 平沢慎也 (2019) 『前置詞byの意味を知っているとは何を知っていることなのか：多義論から多使用論へ』東京：くろしお出版。
- 平沢慎也 (2021) 『実例が語る前置詞』東京：くろしお出版。

- 平沢慎也 (2022) 「英語の前置詞onと「関係の断絶による迷惑」」『教養論叢』143: 105–138.
https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062752-00000143-0105 (正誤表は https://researchmap.jp/shiraresearch/published_papers/36518310)
- 石橋幸太郎・広瀬泰三・伊藤健三・高梨健吉・鳥居次好・渡辺藤一 (1966) 『英語語法大事典 (第1巻)』東京：大修館書店.
- 井上永幸・赤野一郎 (編) (2019) 『ウィズダム英和辞典 (第4版)』東京：三省堂.
- 井上義昌 (編) (1960) 『英米語用法辞典』東京：開拓社.
- Jespersen, Otto (1949) *A modern English grammar: On historical principles. Part 7: Syntax*. Copenhagen: Ejnar Munksgaard.
- 柏野健次 (2010) 『英語語法レファレンス』東京：三省堂.
- 小西友七 (1976) 『英語の前置詞』東京：大修館書店.
- 小西友七 (編) (2006) 『現代英語語法辞典』東京：三省堂.
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of cognitive grammar, Vol. 1: Theoretical prerequisites*. Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. (2000) A dynamic usage-cased model. In: Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage-based models of language*, 1–63. Stanford: CSLI Publications.
- Malmstedt, Achilles (1898) *Studies in English grammar*. Stockholm: Programm.
- 南出康世 (編) (2014) 『ジーニアス英和辞典 (第5版)』東京：大修館書店.
- 西村義樹 (2015) 「百科事典的意味論」斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』219–220. 東京：三省堂.
- Poutsma, Hendrik (1916) *A grammar of late modern English. Part 2: The parts of speech. Section 1*. Groningen: P. Noordhoff.
- Stoffel, Cornelis (1894) *Studies in English, written and spoken: For the use of continental students*. Zutphen: W.J. Thieme.
- Stoffel, Cornelis (1902) Malmstedt, *Studies in English Grammar*. In: Eugen Kölbing, Johannes Hoops, Arthur Kölbing, Reinald Hoops and Albert Wagner (eds.) *Englische Studien*. Leipzig: O.R. Reiland.
- Tyler, Andrea and Vyvyan Evans (2003) *The semantics of English prepositions: Spatial scenes, embodied meaning and cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wells, J. C. (2006) *English intonation: An introduction*. Cambridge: Cambridge University Press.

The Meaning of *for oneself*: Does *see for yourself* imply ‘see for your benefit’?

Shinya Hirasawa
s-hirasawa@keio.jp

Keywords: *for*, *for oneself*, *one's own*, reciprocal pronoun benefactive, contrast

Abstract

The present article is an attempt to describe the meaning of *for oneself* (henceforth *for X-self*) in utterances such as “*Mother, would you come here, please? Father says he can't tie his tie.*” “*Why can't he tie it **for himself**?*”. While there has been a long tradition of ascribing to the phrase benefactive overtones that derive from the corresponding sense of the preposition *for* (e.g., *They sang **for each other***), this analysis cannot be maintained, considering that *for X-self* can be used in utterances that explicitly state that no benefit is realized (e.g., *I saw it **for myself** and I wish I hadn't*) or intended (e.g., *Come and see **for yourself**. Not that it'll do you any good*) for the *X*-denoted person. A more convincing line of argument would be that when a speaker says *X does something for X-self*, she is saying that *X* does it themselves because they are supposed to, rather than having someone else do it for them (*for* here is used in the ‘on behalf of’ sense, not the ‘for the benefit of’ sense). In putting forward this hypothesis I am proposing that the contrast the user of *for X-self* has in mind is along the lines of ‘*X* does it vs. someone else does it’, rather than ‘*X* vs. for someone else’. This rather quirky state of affairs is observed for other expressions such as *X's own N* and *V X-self* as well, suggesting that the present account is not so ad hoc in nature as some might think it is. This article also includes discussion on the possible reasons why the ‘benefactive’ analysis has long been accepted without question, as well as on the validity of other analyses provided in the literature.

(ひらさわ・しんや 慶應義塾大学)